

# 「凄いことはアッサリ起きる」

一般社団法人 やる気のスイッチ協会代表理事

## 山崎拓巳

(-夢-実現プロデューサー)

### 特別インタビュー

「他人軸ではなく自分の中で、高揚感や誇らしい気持ち

湧き上がった体験こそが、成功体験なんです。」

一般社団法人 やる気のスイッチ協会

## プロフィール写真



山崎拓巳（やまざき たくみ）

－夢－実現プロデューサー。

1965年三重県生まれ。広島大学教育学部中退。

22歳で「有限会社たく」を設立し、現在は3社を運営。

現在までに約40冊、累計120万部超えのベストセラー作家。

主な著書に『ひとり会議の教科書』『やる気のスイッチ！』

『人生のプロジェクト』『気づばりのツボ』

『見えないチカラを味方につけるコツ』（サンクチュアリ出版）。

代表著書『やる気のスイッチ！』（20万部突破／サンクチュアリ出版）は、2010年夏には中国語に翻訳され、2011年には英語版『SHIFT』となり全米で発売。

日本のみならずアメリカ、香港、台湾、韓国、中国ほか、海外でも広く翻訳出版されている。

講演活動は、「凄いことはアッサリ起きる」-夢-実現プロデューサーとして、メンタルマネジメント、コミュニケーション術、リーダーシップ論など多ジャンルにわたり行なっている。

<山崎拓巳公式サイト Taku's blog>  
<http://www.taku-blog.jp/>

## まえがき

「やる気のスイッチ」のメールマガジンにご登録いただきまして、

ありがとうございました！まず、山崎拓巳のスペシャルインタビューをお届けします。

拓巳さんが、幸せや成功をどのように考えているのか？

今いる場所にたどり着くまでの道のり。晴れやかな体験、そして挫折や苦勞など。

「成功は偶然で、失敗には理由がある」、という拓巳さん。

なぜそう考えるのに至ったのか？ここで語られる内容のいくつかは、

あるいはすでに著書や講演で聞かれたことがあるかもしれません。

またいくつかのエピソードは、ここで初めて語られたことかもしれません。

しかもこのインタビューには、ある秘密が1つあるのですが・・・後にしましょう。

それはさておき、90分近いお話しを25ページに濃縮しました。

ぜひごゆっくりお楽しみください。

一般社団法人 やる気のスイッチ協会

## 山崎拓巳さんへのインタビュー

1. 成功とは、新しい自分と出会うこと
2. 幸せとは、自分の価値観で「幸せだなあ」と感じる状態
3. 成功体験を自分軸で探す
4. 逆境を乗り越えるには？
5. 成功は偶然、失敗には理由がある
6. 夢とは、一生追い続けるもの （聞き手：永井 堂元）

### 1. 成功とは、新しい自分と出会うこと

——まず、山崎さんにとって成功とは何でしょうか？

僕にとって成功とは、今とは違う新しい自分と出会うことです。

僕は今年 51 歳になるんですが、20 歳の時からビジネスをやっていて、今の業績は 20 歳からの 30 年間で培われたものなのです。だけど、もう 30 年前の自分は他人様なんですよね。

たとえば、30 歳になって昔告白した女性に「あのときに、私のことを好きって言ったじゃない？」なんて言われても、「それ、何歳の時の話？」という話ですよ。「でも、好きって言ったよね？」「あれは・・・、今の俺じゃないし・・・」という感じですよ。

でもビジネス自体は、確かに 30 年前からずっと続いていて、他人様の成功した財産を頂いているような感じがします。だから、今の自分のことを他人様と思えるような自分がまた未来にいて、その未来の自分が喜ぶような事をしていたら、成功している事になると思うんです。

逆に、他人様のように感じる未来の自分が、今の自分のことを見て、「こんなふうになったのはお前のせいだぞ。頼むよ」という感じであれば、失敗だと思います。そういう意味で、新しい自分と出会える事が成功かな、と思えるんです。

——新しい素敵な自分と巡り会えて、未来の自分から今の自分に「あの時はあ  
あいうふうに行動してくれて、ありがとうね」と言ってもらえる状態が成功ということ  
ですね。

はい、そういう状態を成功だと言っていいと思います。

## 2. 幸せとは、自分の価値観で「幸せだなあ」と思える状態

——それでは、山崎さんにとって幸せとは何でしょうか？

幸せについて、最近非常に考えるのですが、「幸せだなあ・・・」と感じる状態のことを幸せだと思っています。

そして「幸せだなあ」と感じる状態は、自分の価値観が変わっていくことや世間の価値観と自分の価値観が異なることで、ずれていくんですよ。

さっきの話で言うと、他者から見ると素晴らしい状態、でも自分ではそう思えない状態だというずれがある人は、「降り忘れた高速道路」みたいなものだと思うんです。「しまった！前のインターで降りなければいけないのに、もう降りられない！」間違えたと思っているのに、そこから降りられずにどんどん違う方向に進んでいかなければならない、という精神状態ですよ。それでも周りから、「すごいですね。こんなに遠くまで来て」「すごく飛ばしましたね。スピード満点ですね」と誉められるのです。そういう人は、実はたくさんいるのではないのでしょうか？

僕の親父が、口癖のようによく「ワシはいくつになったら、本当にやりたい事をやるんだ？今やっていることは、本当にやりたいことじゃないんだ」と言っていました。ところが自分がその歳になってみると、「僕はいくつになったら、高速道路から降りるんだろう？」という同じ状況になっていたんです。

「自分の幸せとは何か？今やろうとしていることはその幸せに向かっているのか？」という事を常に確認していないと、ずれやすいですよ。だから、緊張感を持っているんです。

——なるほど。高速道路のたとは分かり易いですね。周りから見れば、十分スピードに乗っているのに、本人だけは道を間違ったと思っている状態。それは悲劇ですよ。

常に確認しておかないと、いくらでも簡単にずれていくものだと思います。

また価値観は、歳を取ったり時代が変わったりすると、どんどん変化していきますよね。独身の時と、結婚して子供が生まれた時、または時代が変わって価値観が変わる時など、ものすごくその瞬間その瞬間で違うなと思っています。

たとえば僕は、20歳の時は旅をする事が仕事になればいいなと思っていました。

しかし、50歳の今は年間200泊のホテル生活をしていて、「結構体力いるなあ・・・」としんどかったりしています。「あれ？夢だったのに・・・？」という感じですよ。

(笑) たしかに夢を叶えまくっているんですが。(笑)

「よく考えないと、続かないなあ」って、感じます。

——自分の価値観が大事なんですね。多くの人が、「こういう所に住んで、こういう車に乗って、こういう服を着て・・・」と、本当の自分の価値観と違うものを周りから押し付けられているように思います。本当に大切な価値観を見つける人と、見



**つけられない人の違いは何だと思われますか？**

「すごい自分になる」か、「自分がすごいと思われたいか」の違いですね。

「すごい自分と思われたい」のは、他者に物差しがあって、その物差しに合わせる  
ことですから、ある意味刷り込みですよ。

逆に、自分が思える「すごい自分になろう」、という生き方をしている人もいます。

自分の価値観は、オリジナリティ溢れる自分の物差しで自分を計れるかということ  
ですよ。だから僕は、自分の価値観で生きている人間と会うようにしています。

たとえば、高橋歩（あゆむ）さんという人がいるのですが、この人はすごいと思いま  
す。子供を連れて世界を回っていたのですが、「小学校、行かせなくて大  
丈夫？」と聞くと、「大丈夫、俺の子供はそんなに小さい生き方しませんから」と言  
うんですよ。一言で終わりです。

すごいなあ……。自分の物差しで生きているんだな、と感心します。

そういう人を見ていると、自分軸で生きているよなあ……。と思うんですよ。

そういう人と一緒にいると、「自分が大切にしている価値観で生きるには？」「自分の  
物差しは何だろう？」と常に考えられるんです。

**——自分の物差しを持っている人と付き合うことで、自分の物差しを持てるように**

なっていくと。

実は僕は田舎で、学校の先生は社会的に素晴らしい職業だと刷り込まれていて、先生になろうとしていたんですよ。ですが、いざビジネスをやろうと考えた時に、学校の先生から高く評価されるものの見方・考え方を身に付けていたのですが、それでは成功できないなと思いました。学生時代には先生の受けも悪くて、学校の中で収まらない人たちが、商売で成功しているケースが多い感じがしましたから。

——今までは与えられた価値観の中で生きてきたのが、いろんな成功者の価値観を学んで、新しい自分が見えてきたということでしょうか？

ええ。僕はどちらかと言うと、学校の中で〇とされる価値観の中で生きていて、それを変えてきた30年間だったと思うんです。分かり易く言うと。

——成功した人と自分を比べてみると、その人は特別なんだ、自分はとてもこの人みたいにはなれない、と最初は思ってしまいますよね。そこから、自分もそうなれるかもしれないという可能性を、どのように見出してこられたのでしょうか？

僕は小学校の時にすごく自由奔放に育てられて、本当に漢字も覚えていなくて、中学校に入った時に愕然としたんですね。

それで、夏期講習に呼ばれたときに、集められた面々を見て愕然とした。

「俺、このグループと一緒になの？抜け出したい！」と。(笑)

それが僕をやる気にさせて、本気で勉強して、気付いたら、クラスのトップレベルになっていました。そして次は、学年のトップ 10%に入ったんです。

そこで「あ、分かった。俺、ヒエラルキー(階層)の中に入ると、トップ 10%になる癖があるんだ」と思ったんです。パターンが分かって、安心感がありました。「どのヒエラルキーに入るかだけが重要なんだ」と思ったんですよ。

だから、僕が自分でビジネスをやる時には、「このビジネスでのトップ 10%に行くんだろうな。普通に考えると行けそうにないけど、行けたら相当すごいぞ」と考えました。後は自分の枠をどういうふうに見るかですよ。県下でのトップ 10%か、日本の中のトップ 10%なのか、もしくは今度は世界の中のトップ 10%なのか。どこまでを視野に入れるかによって、行けるところが変わる、ということです。

**——パターンが分かって安心感が出たことで、思い切ってやれるようになったと。**

それまでは、もう少し自分を守るような考え方をしていたんですよ。「大丈夫かなあ？」と不安になったときに、「今までいつも、トップにはなれなくてもトップ 10%には入れたんだから」と考えられると安心ですよ。

今考えると、必ずトップ 10%に入れるのであれば、大きなチャレンジをしようと考えました。自分がひるみそうになった時に、その考え方を使っていましたね。

——まずは自分がうまくいくパターンを知ること。そして視野を大きく持って、どこまで行けるかを考えるということですね。

後は、僕はいつも小さく始めるんですよ。

幼稚園の時は鈴虫を番（つがい）で捕まえて、野良仕事帰りのおばあちゃんの中に入れて行って、「100円、100円。番で100円」って売っていたんですよ。

でも、おばあちゃんたちも野良仕事をやっているから、鈴虫がいっぱいいるんですよ。

それを100円で売っている幼稚園の子を見て、かわいくて、お小遣いだという事で買ってくれるわけですよ。それで「今日は200円になった！」と喜んでいました。

（笑）

また小学校の時には既に小説を書いて、しかも二部書いて、弟と妹に売っていたんですよ。（笑）1冊20円でした。「二巻ができたよ」「本当？」みたいな感じで。

何が大変かという、考えるのは大変ではなく、二部作るのが大変でしたね。あの頃はコピーもなくて、手書きで二部作っていましたから。

「なぜ、ただでくれないの？」と言われても、「それはだめだよ。これは自分で創ってオリジナリティ溢れる作品なんだから」って言って。（笑）

それが最初の大きな成功体験ですね。

——商売人として原価ゼロの鈴虫を売ったこと、作家として兄弟に小説を売ったことが成功体験なんですね。（笑）

漫画も、「漫画入門」を買ってきて勉強して描きました。それがイラストにつながっていると思うんですよ。

### 3. 成功体験を自分軸で探す

——誰でも山崎さんのような成功体験があるとは限らないのではないのでしょうか？

僕は自分のセミナーで、「人生で起きた事を思い出す。人生で起きたベスト5の体験は？」というワークをやっているんです。

でも中には「考えてみたのですが、私には成功体験がないんです」という方がいるんですよ。「ないことはありません」と言っても、「私はそんなすごい事をしてきてないんです」と。これが間違えています。成功体験というと、人から賞賛されるようなことを成功体験だと思っている人がいるのですが、そうではありません。自分の中で、高揚感や誇らしい気持ちが湧き上がった体験を、僕は成功体験と言っています。先ほどの自分軸なのか、他人軸なのかということですよ。成功体験は自分軸でいいんですが、ここで間違いをしている人が多いんです。

たとえば、僕の成功体験を挙げろと言われれば、ビック5の中に「広島大学入学」というのがあるんですよ。でも実は僕、大学は卒業していないんですよ。だから人様からは「でも、お前大学卒業してないよね。成し遂げていないよね」と言われてもしょうがない。

だけど僕の中では、「こんな大学に通ったんだ」ということで、「広島大学入学」は

山崎拓巳というアイデンティティを支える、5本の柱の1本なんですよ。

もう一つは陸上で東海大会2位に入ったというのがあります。でも、世間の物差しでの成功体験と言えば、全国で10位になったことの方なんですよ。もしくは大学に入って、一般で全国30位になったことの方が、世間的には評価が高いんです。でも僕の中の、成功体験ベスト5はこの「東海大会2位」なんですよ。これが、僕にとって、「俺いけるかも？」みたいな感覚がものすごく自分の中に、ズゴンって立ち上がった柱の一つなんですよ。

これが、他人軸と自分軸の違いなんです。で、「こういうものでないと駄目なんだ」というものをどこかで教え込まれて、他人軸で計っているから、自分には成功体験がないと思ってしまうんです。

セミナーでそういうことを説明したら、「だったら、私こういうことがありますよ」と出てくるんですね。

「実は私、高校の時に鬱だったんですよ。でも、『あいつは鬱で、高校卒業できなかったんだ』と言われるのが嫌で、悔しくて塾に通いまくって、友達と同じ時期に卒業できた、というのがものすごい柱なんです」と言ってくれたりする。これこそが成功体験なんですよ。

「そう、それがあなたの成功体験ですよ！」と。世間の評価では、「みんな卒業している」ということで、卒業することは別にすごいことではありません。

ここが分からない人が多いかもしれませんね。

でもこの拠り所こそが、自分を未来に連れて行ってくれるものなんです。

「じゃあ、私は高校の時、全然学校にも行かず、アルバイトばかりしていたんですが、マクドナルドで無我夢中の忘我の世界を毎日体験していました。あの時期が私の自信になっています。これでいいのでしょうか？」という人がいます。もちろん、それでいいんですよ。「これがあるから成功だ」というものは、他人には決め付けられないと思いますね。

——過去に成功体験がないというふうに思い込んでいる人は、他人の評価に縛られている。「自分の中で高揚感を持った体験が何か」というのが、自分にとっての成功体験で、それを掘り起こしていくと、未来に向かっていく上での宝があるのですね。

#### 4. 逆境を乗り越えるには？

——それでは逆に、山崎さんが逆境や落ち込んだ時に、どう乗り越えられたか、というお話をしていただけないでしょうか？

まず、僕は22歳の時にやる気がなくなったんですよ。

それで、「やばい」と思いました。「このままの状態ではうまくいかないぞ。夢が実現

できないぞ」と。でも夢の途中まで来ていて、周りからの評価は高く、「拓ちゃん、すごいね。活躍を聞いたよ」って言われる。そういうことを言われれば言われるほど、辛い状態になったんです。

「でも、本当はやる気がなくなっちゃったんですよ」(笑)なんて、誰にも言えませんから、人前に立ったら、エキスパートとして振舞っていました。

それで恩人の、陸上を教えていただいた田中先生に会いに行ったんですよ。

「おお山崎、元気か？」

「それが先生、相談があるんですよ」

「何があったんだ？商売はうまくいっているらしいじゃないか」

「それが、やる気がなくなったんですよ。高揚感がないんです」

「お前にとって陸上経験は何だったんだ？ただ走るだけなら続かなかっただろう？

陸上が、お前にとっての芸術だったんじゃないか？だから、効率的な走りとは何か、いかに速く走るにはどうするかと、美学を追求したんだろう？

お前にとって、仕事がたとえば金儲けであれば終わりが来る。だけど、それがアートならば終わりはないぞ」

そう先生に言われて、「なるほどな。目の前の仕事をちゃんと片付けて、早くお金にしたいという気持ちがあったんだ」と思ったんですよ。だから「より美しく」とか「なるほど、こういうことだったんだ！」という気付きが途中で終わっていて、早く形にしたい、終わりにしたいと思っていたんだと。



先生からは、「じゃあ僕にとって、仕事の美しさとか、芸術性って何だろう？」という、「問い」をもらったんですよ。あくまで「問い」をもらったのであって、「答え」ではありません。「答え」は永遠ではないですよ。常に状況によって答えが変わってきますから。その「問い」自体が、ものすごい自分を変えてくれたんですよ。

これが 22 歳の時でした。

——**恩師に、自分の原点に立ち返らせてもらったと。**

はい。また 25 歳の時に、自分が組織の中で浮いてしまって、ある意味孤立したことがありました。それで 3 年間、同業の人たちと顔を合わせない時期があったんです。

「山崎拓巳の DVD もビデオもなくせ。もう見せるな。片付けろ。あいつの発想は危険なんだ」みたいな感じで、ミーティングも出られずに、僕のやっていたビジネスのセミナーにも、3 年間一回も出られなくて、呼ばれることもないままでした。

「俺の人生はバラ色のはずなのに、何でこんな事になっているんだ？」と思ったけれど、「その中で楽しい事を探せばいいな」と思い直しました。それで、スルッと抜けたんです。

だからその間はご機嫌でした。神様がくれた夏休みみたいな感じでしたね。

迷惑をかけるといけないから、仲間に会いにいくとまずいなあと思って、身を潜めて、その時につきあっていた彼女とサーフィンをしたり、旅をして日本をまわったりして

いました。

だから、その3年間は今思い出しても、楽しいできごとのあった3年間で、うまくいっているんですよ。結局バラ色なんです。でも、普通の人はそういうふうにはスルッと抜ける事ができないんじゃないかと思いますね。

それで3年経って、また業界に帰ってくるんですけど、周りの人は、「どっかから帰って来た。でも、顔色がいいなあ？」みたいな反応でした。

普通だったら、引きこもった時間を過ごして、どうしようという状況ですよ。だから周りの人が心配して「変な事考えるなよ」と言われたりしましたね。(笑)

その前に何があったかという、25~28歳の時に、僕は家を建てたんですよ。24歳の時から建てようとしていたから、図面ができ上がっていましたので、僕の母親が拝み屋さんみたいな人に見せたんですよ。今で思えば、風水なんでしょうね。

「水の位置がよろしくないです。トイレをちょっとずらしてください」とアドバイスをもらっていましたね。その一環でその拝み屋さん、「これはあなたのところの息子さんですか？この息子さんはまあ、すごい人生を歩みますね。特に来年の5月、すごい転機を迎えますよ。お宅の息子さんは最高の人生ですよ」と言われたんですよ。

母はもう一人、また別の拝み屋さんに見てもらいました。

「トイレの位置をずらせば、後はこの家は大丈夫ですよ。しかし、お母さん、これはあなたの息子さんですか？こんな息子さんは、見た事がない。素晴らしい人生を歩みますね。特に来年の5月、好転機を迎えますよ」と同じことを言われたので、「あんた、来年の5月に、素晴らしい事が起きるよ！」と母に言われたんです。

「そんなことを見に行ってもらっていたんだ？言うておいてよ。僕も知り合いにも、霊能者の人がいるんだから」という会話をしたのを覚えていて、どんな事が起きるのかなと、ワクワクして待っていたんですよ。

それで業界から孤立してしまっ、「これかあ！」って思いましたね。これが、自分の人生をとんでもなく良くするためのきっかけ作りだったわけですよ。でも、当時持っていた価値観からすると最悪なわけです。誰からも連絡も来ないようになりましたから。

あと、僕は身を潜めている間に絵を描き出したんです。絵を描くのは楽しかったのですが、個展をやろうとすると、他人の評価が気になってきて、それが苦しかったですね。個展は自分軸だけではできませんから。

「個展をやりたいから、個展会場を貸して欲しい」と会場に行くと頼むと、「君の絵

では無理だ」と言われました。

実はレンタル会場を自分で借りて、個展をすれば良かったのですが、その時は知識もなく、分かりませんでした。それでトップレベルの個展会場に行ってしまうと、「君の作品ではね」と結構冷たく扱われたんですよ。

「追い払われるのはいいのですが、じゃあ、僕はどこに行けばいいんですか？ やり方を教えてくださいよ」と言うと、ブルックリンがいいんじゃないか、と教えてもらいました。早速ブルックリンに行ったんですが、ブルックリンはその日はギャラリーが休み、という感じで、どんどんはまっていくんですよ。（笑）

じゃあ、浮上するためにどうするかというと、これは僕の本にも書いていますが、僕は結構丁寧にやるんですよ。

それには、「これがうまくいくと、どんな自分になれるのか？」と自分の成功パターンを見て、成功した自分を思い浮かべるんですよ。そして、「ブルックリンでの個展開催が決まったぞ！ イエーイ！！」という感じ、その周波数でやっていたらいいんです。そうすると、うまくいきます。これは法則化していて、その通りにやれば効果が出ますよ。

——自分の環境が良くないときには、その中でも楽しいことを探すよう、発想を切り替える。そして、既に成功した人のようにふるまうと、結果が出るということですね。

そうです。

## 5. 成功は偶然、失敗には理由がある

——山崎さんは、うまくいく人とうまくいかない人の違いは何だと思われますか？

実はうまくいく人とうまくいかない人には微々たる違いしかなくて、それが結果的に大きな違いになっています。

これにも法則があって、僕はその通りにやっています。

ゴルフで言うと、ハーフスウィング差くらいのところに 100 人くらいいるのですが、その人たちの収入は何千万円から何十億円の幅があります。たったハーフスウィングの平均の中にこんな大きな違いがあるんですよ。

野球も三割打者と二割八分の打者の間に大きな違いがありますよね。でもそれは、1000 打席中、280 本か 300 本かの違いで、たった 20 本しか違わないんです。その 20 本の奇跡を埋めていくために、みんな努力をしているんですよ。

それでは何が圧倒的に大切か？僕は、成功は偶然だと思っていますが、失敗には理由があると思っています。その理由を解明して行って、より偶然が起きやすい

自分を作る事が成功していく方法だと思うんですよ。

「成功なんて私にはできない」と思っている人は、その三割打者の素晴らしさに触れて、「自分にはなれるわけがない」と思っているのですが、その人もある程度やれば、二割八分まではできるんですよ。

ではその残りの20本をどう埋めるかというのが、実は成功者の言っているアドバイスなんです。ところが言われた事をやってみると、できません。できない時には失敗ですから、そこには理由があるんです。成功者は、その理由を突き詰めることで、偶然が起きやすくなり、20本が埋まっていきやすくなるという考え方をしますね。

まずは素直に教えてもらった事をやってみる。そこで失敗体験をしても、「言われたようにやったけど、やっぱりあの人と私は違うな」じゃなくて、そこで一個一個理由を見つけないという事をやっていくとうまくいくよ、とアドバイスしたいですね。

**——より偶然が起きやすい自分を作る、というところをもう少し教えてください。**

成功のパターンは人それぞれあって、成功者が教えてくれる事があります。

でも、それをやって成功するとは限りません。ただ、成功といういろんなちっちゃなチ

ップスがあるわけですよ。で、成功者の言うようにやってみると、その偶然性が高まるんです。

たとえば僕も、今のビジネスの中で「こういうようにやってみるといいよ」と教えているし、僕も教えられた方法でやっています。ところが、うまくいかないことがほとんどなんです。でもそれをするだけで、うまくいく確率が高くなるのです。

成功パターンというのはいろいろあって、その成功パターンでやると必ず成功するとは言いきれません。成功パターンは参考にはなりますが、絶対ではないんです。それに、自分の成功には自分のパターンがあります。ただし成功者の発想は、非常に成功確率を上げてくれるものなんですね。

うまくいかなかったことは反省して、「なるほどな、こういうのは駄目なんだ」とそれを改めることによって、また成功確率が上がります。

成功なんかできないと思っている人は、成功は10打席で10安打くらいに思っていますが、打率は十割ではなく三割でいいし、努力することで二割八分まではいくんですよ。そこから20本増やせば、三割にいくんです。

——自分ではできないんじゃないかと思っている人は、うまくいっている人を見て、「この人は何でもうまくいっている」と思ってしまい、失敗している部分が見えないんですね。

そうです。成功者だってうまくいかないことだらけですよ。

僕はあるとき、「悩みはなくなる」という事に気付いて、がっかりすると同時に、一つ安心したんです。

「今悩んでいる問題を、早く解決できないかな？」と思うのですが、解決してしまうと「解決した自分のセルフイメージ」ができるから、同時に次の問題を見つけてしまうことになるんですよ。

たとえば「早く50万円の給料を取れるようになりたい」と思っていて、実際50万円取れるようになると今度は、「この50万円を安定して取れるようにならないかな？」という悩みが始まります。これはずっとあるんです。しかも人間は、身の丈にあった悩みしか、悩みとして捉えられません。自分で解決できる問題しか、問題として捉えられないんです。

ある人は「世界経済はこれからどうなるんだ？」と夜も寝られずに考えているし、その隣にいる人は、「隣の犬が子犬を4匹も産んで、キャンキャンうるさい！」と一晩



中 考 考 えて いる か も し れ ま せ ン 。 み ん な 同 じ よ う に 、 何 か に 悩 ん で いる ん で す 。 そ れ も  
自 分 の 解 決 で き る 問 題 に 悩 ん で いる ん で す よ 。

僕 は 21 歳 の 時 に 、 こ ん な ア ド バ イ ス を さ れ て 、 ド キ ッ と し た 覚 え が 有 る ん で す 。

「 お 前 、 や ば い ぞ 。 先 月 と 同 じ 悩 み を 言 っ て いる 。 お 前 の 悩 み が 先 月 と 変 わ っ て い  
な い と い う こ と は 、 先 月 か ら 今 月 に か け て 、 お 前 が 全 然 成 長 し て い な い と い う こ と だ 。

問 題 自 体 は 問 題 で は な い 。 お 前 の 悩 み が 変 化 し て い な い 事 が 問 題 な ん だ 。」

そ う 言 わ れ て ド キ ッ と し た こ と が 有 っ て 、 そ れ が 自 分 が 大 き く 学 ん で 、 大 切 に し て き  
た 事 で す 。

自 分 の 悩 み を 克 服 す る 事 が 、 成 長 じ ゃ な い で す か 。 そ れ を 、 悩 み を 悩 み の ま ま に し  
て いて 、 全 然 成 長 し て い な い と い う こ と が 、 最 大 の 問 題 な ん で す ね 。

—— 先 月 か ら 悩 み が 変 わ っ て い な い と 言 う こ と は 、 そ こ に 捕 ら わ れ て いる 自 分 が い  
て 、 そ こ か ら 成 長 し て い な い と い う こ と で す ね 。 す ご い 考 え 方 で す ね 。

## 6. 夢 と は 、 一 生 追 い 続 け る も の

—— 最 後 に 、 山 崎 さ ん に と っ て の 夢 は 何 で し ょ う か ？

大 き く 言 う と 、 夢 を 探 し て 、 追 い か け る と い う の を 一 生 続 け る こ と で す 。 だ か ら 夢 を

一つ叶えたら、また違うものを見つけるということですね。

ビジネスの世界で、今ワクワクしていることは、今までの延長線上での拡大ではなく、全く新しい自分になって、またやっていくことです。「自分はこんなことを考えるんだ！こんなものに巡り会えた！」みたいな、やり方は分からないけれど全く新しいメソッドで、目標を実現していくという事です。

今それを探している幸せな時期ですよ。

「やる気のスイッチ」というテーマで講演するときによく話しているんですが、みんな“ぶっ飛んだ夢を持とうよ”と・・・。

——“ぶっ飛んだ夢”とは、どういうことでしょうか？

今の自分では、どうやったら達成できるのか、方法がまったく思いつかないような大きな夢を持つということです。よくいわれるように、自分が自分に下しているセルフイメージ、それを変えなければ、今までの過去の経験で物事を見極めて判断するため、道は100も、1,000も、億通りもあるのにも関わらず、結局、過去の延長線上での未来を選択してしまうんですね。

だとしたら、やり方が分からなくとも、『ぶっ飛んだ夢』を持つことで、自分のセルフ

イメージが変わる。となると、今まで意識の当たらなかったブラインドがかかっていたところがスコンと開いて、今まで目の前にあった、素通りしていたことも、『こ、こんなところにあったなんて・・・！』と、今まで見えていなかった景色が、突然見え出すようになるんです。

深層意識は「今の自分が大好き」で、だから変わりにくい。

しかしながら、セルフイメージを変えれば、その新しいセルフイメージに合う最善最良選択を、サクッと自動的にやり始めるんですよ。

そしてセルフイメージを書き替えるには「ぶっ飛んだゴールを設定する」。

ゴールが先だ！方法は後だ！と(笑)

**——なるほど、最初におっしゃった、「成功とは、今とは違う新しい自分と出会うこと」とつながりますね。**

そうですね。実は僕も映画や映像をやっているのですが、環境映画でもいいんですけど、見ているとその人のセルフイメージが上がっていくようなものを創りたいと思っています。映像を見ているだけで、セルフイメージが上がるものです。

だけど、「この映像を見たからイメージが上がった」というのではなく、その人が自分で勝手にセルフイメージを上げていかなければいけないと考えています。無理やりこちらで上げることはできないんですね。

だから見ているだけでも何だか分からず、「なんなのこれ？」とその映像を見て、気付いた

らやる気になっているというのが、本当の社会貢献になるのではないかと思うんです。

——その映像の中に、セルフイメージが上がっていくような、みんなが幸せになっていくような幸せのウィルスを散りばめていくということですね。

そうです。映画にはそういう夢がありますね。「じゃあ、どうやってやるの？」と言われると、それは自分のセルフイメージが上がった時にできるんだと思います。サプライズパーティをやった時のワクワク感とか、下駄箱の中にそっと相手が喜ぶものを置いて、相手が嬉しがっているの知らない顔をして見ているとか、そういう感じを映像でできたらいいと思っていますね。他には、僕のやっているビジネスの世界で、世界中の成功者を訪ね歩いて、どんな人が成功しているかを知りたいと思います。彼らが成功した方法を広めるために、一人一つのプロジェクトを作っていけば、200個位プロジェクトができるんですよ。それを管理する事務局を作ったりするのも面白そうですね。みんな何かができる機会を待っていると思うんですよ。そういう機会作りができたらいいなと思っています。

後は、自分が気付きはじめた「成功の技術」を、より多くの人に伝えていきたいなと思っています。

——今日は本当にありがとうございました。拓巳さんには社会のためにも、是非たくさんの方の、ぶっとんだ夢を叶えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

## あとがき

「山崎拓巳 スペシャルインタビュー」を最後まで読んでいただき、

ありがとうございました。いま、どのようなことを感じていらっしゃいますか？

実は、このPDFは、2008年夏に行われた最初のインタビューに大幅に

加筆・修正を加えて作成しました。

インタビューの最後での拓巳さんのことばです。

「自分が気付きはじめた「成功の技術」を、より多くの人に伝えて

いきたいなと思っています。」(2008年9月)

このときの思いが、いま山崎拓巳が代表をつとめる「やる気のスイッチ協会」の活動として現実化しています。

「やる気のスイッチ協会」

私たちの思い⇒<http://yaruki-no-switch.com/thought/>

成功の技術・夢をかなえること・やる気を技術にし、伝承できる方法が

「やる気のスイッチ」だと考えています。

今後、あなたにメールマガジンで、「やる気のスイッチ」の

しくみと正体をお伝えしていきます。

こちらもぜひ、楽しみにしていただければと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

追伸：2008年の山崎拓巳さんへの最初のインタビューがご縁で、

いまこの活動をご一緒させていただいています。

一般社団法人 やる気のスイッチ協会

理事 永井 堂元

## 山崎拓巳スペシャルインタビュー

---

2016年11月11日 ver1.0

著作権者：一般社団法人 やる気のスイッチ協会

代表理事 山崎 拓巳

協会住所 東京都港区麻布十番 2-3-7-702

E-MAIL [yaruki-no-switch@taku.gr.jp](mailto:yaruki-no-switch@taku.gr.jp)

URL: <http://yaruki-no-switch.com/>

### 著作権について

本冊子は、著作権で保護されている著作物にあたります。

本冊子の取り扱いについては、以下の点にご注意ください。

- 本冊子の著作権は、一般社団法人 やる気のスイッチ協会にあります。
- 当協会への書面による事前許可なく、本冊子の一部または全部を印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー、ホームページ等のあらゆるデータ蓄積手段により複製、流用、転載、翻訳、転売（オークションを含む）等をすることを禁止します。